

福井県優良図書

令和8年6月分

○言葉はフレンドル！
アンドリュー・クレメンツ // 著
田中奈津子 // 訳
【小学生（高学年）～】



講談社 ¥1,600 円（税抜き）

五年生のニック・アレンは、「言葉はどうやってできたのだろう」と考え、ペンを「フレンドル」と呼ぶことを思いつきます。主人公のこのようなユニークな発想と行動は日常に波紋を広げます。やがて「フレンドル」は広く使われるようになり、本物の言葉へと近づいていきます。十年後、大学三年生になったニックはついに辞書に載った「フレンドル」を発見したのです。

本作品では、子どもが自ら考え実行する姿が描かれます。また、子どもを支え励ます大人の存在も印象的で、大人にも多くの気づきを与えてくれます。

○わたしのちいさいいきものえん
大島加奈子 // さく
【幼児～】



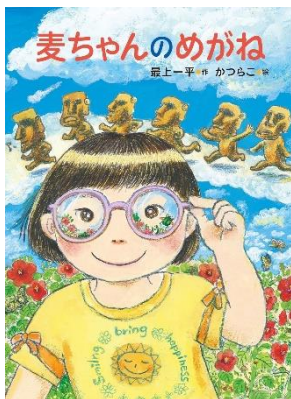
福音館書店 ¥1,200（税抜き）

本作品は身近にいる小さな生き物を、家庭にあるプラスチック容器を飼育ケースとして、世話をする子どもの観察日記です。

身近にいる小さな生き物は、清潔な生活環境を求める人にとっては嫌われ者ですが、観察を続けることで、生き物の不思議や魅力に気づき、やがて愛着さえ感じられるようになります。

実際に生き物を飼ってみたい子どもにとって、本作品は分かりやすいガイドとなるとともに、生物多様性についても考えるきっかけを与えてくれます。

○麦ちゃんのめがね
最上一平 // 作
かつらこ // 絵
【小学生】



新日本出版社 ¥1,400（税抜き）

主人公の麦ちゃんが、めがねをかけ始めることから物語は始まります。

これまで気づかなかった学校の様子を、より深く観察できるようになったことで心にも変化が生まれ、クラスメイトとの繋がりが広がる様子が描かれています。

友達関係が広がる10歳前後の子どもにとって、周囲の人への関心が高まる時期の気持ちや、他者のとらえ方の変化が身近に感じられる内容です。

読者自身が他人との関わり方や見方について考えるきっかけとなります。

○もりのあさ
出久根育 // 作
【幼児～】



偕成社 ¥1,800（税抜き）

朝霧の静かな森の中を、少女が一步步進むたびに広がる景色が、五感を通して丁寧に表現されています。

自然体験が少なくなりつつある現代の子どもたちにとって、本作に描かれる「音」「光」「におい」への感覚は、新たな関心を引き出すものとなるでしょう。

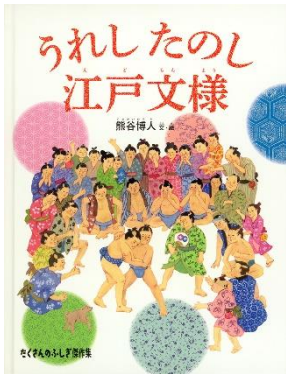
近年は環境汚染や異常気象による自然破壊が進み、生態系への影響も深刻化しています。

森の美しさや生きものの営みを通して、地球環境保全の大切さを青少年に伝える優れた作品だといえます。

○うれしたのし江戸文様

熊谷博人 // 文・絵

【小学生（低学年）～】



福音館書店 ¥1,300（税抜き）

本作品は、江戸時代の暮らしや文化を、美しい文様と親しみやすい挿絵を通して直感的に楽しめる図書です。

また、単に江戸文化を学ぶだけでなく、現代にも通じるデザインの面白さや、多様な表現に触れる入り口としても魅力があるので、幼児から小学校低学年の子どもでも親しみやすく、日本の伝統文化にしぜんと触れることができます。

江戸の人々の暮らしや願いが込められた文様を通して、楽しみながら文化理解を深められる一冊です。

○それからぼくはひとりで歩く

アリシア・モリーナ // 作

星野由美 // 訳

【小学生（高学年）～】



ほるぷ出版 ¥1,450（税抜き）

目の見えない11歳の男の子を主人公とした物語です。

本書の作者は、障害のある娘を育てる中で、「同じように障害を持つ子どもが登場し、共感できる幸せな物語」を探しましたが見つかりません。それで自ら筆を執ることにしたのです。

物語は、主人公が朝、目覚める場面から始まり、音を通して日常が描かれ、そこには、家族の温かな支えが感じられます。

見えない中でアクシデントに遭いながらも、人々の助けや温かい配慮を受け前に進む主人公の、まさに冒険譚が展開されます。

○勇士アフマド イランのむかしばなし

愛甲恵子 // 文

網代幸介 // 絵

【幼児～】



B L 出版 ¥1,800（税抜き）

お調子者のアフマドが、自分の斧に「槍一本で300もの敵を倒す勇士アフマド」と彫ってもらったことから、人生が展開していきます。

柔らかなタッチのイラストが、イランの生活や文化を温かく伝え、戦場の場面でさえ、ユーモラスで優しい印象を受けるイラストとなっています。

アフマドのその場しのぎとも思える行動が次々と好転し、窮地にあっても「人生はやってみなければわからない」と勇気づけます。

読者は、血を流すことなく平和を築ける方法があることを学ぶことができます。

○山に登る

星野秀樹 // 写真・文

【幼児～】



アリス館 ¥1,600（税抜き）

『山に登る』は、写真家・星野秀樹が「なぜ山に登るのか」という問いに、写真と短い文章で答えた一冊です。

リュックを背負い険しい道を進み、ときに風雪に耐えながら頂を目指す道のりには、高山植物の咲く斜面や満天の星空、鮮やかな紅葉など、山でしか出合えない景色が広がり、問いへの答えとなっています。

また、「なぜ苦労してまで登るのか」という問いへの答えは、登山にとどまらず、困難を承知で新たな挑戦に踏み出す人々に共通する思いをも示しています。

○ほんとうのよるをさがして
マーシャ・ダイアン・アーノルド // ぶん
スーザン・レーガン // え
ひさやまたいち // やく
【幼児～】



評論社 ¥1,800 (税抜き)

人間が造り出した「きらめき」、「まばゆい光」に戸惑う動物たちが「ほんとうのよる」を探しに出る物語で、動物たちのつぶやきや挿絵で情景を描き出しています。

やがて、動物たちは、遠くの無人島に辿り着き、優しい月明かりに包まれた夜を見つけます。

県内でも、大野市南六呂師地区では、全国でも数少ない星空保護区の認定を受け、街の照明を落として、星空を見上げてみようと呼びかけています。

県内の子どもたちが、この絵本と出会い、「ほんとうのよる」に想いを馳せ、動物との共存や地球環境について考える機会となれば幸いです

○キューのふるさととはボルネオの森
黒鳥英俊 // 文
横塚眞己人 // 写真・構成
【幼児～】



偕成社 ¥1,600 (税抜き)

オランウータンのキューは、生まれ故郷であるボルネオから密輸で横浜に運ばれ、多摩動物園公園に引き取られ、作者でもある飼育員と出会いました。

ボルネオでも農園開発による大規模な熱帯雨林の破壊が行われ、「パーム油」という有用な油を採るため5割の熱帯雨林が失われアブラヤシの単一栽培地になってしまっていました。

残された森を守るため、「森の回廊」や「対岸への架け橋」の設置など、さまざまな取組が行われています。本作は、自然環境と人間の活動の関係について深く考えさせられる一冊です。

○かっこいいピンクをさがしに
なかむらるみ // 文・絵
【小学生（低学年）～】



福音館書店 ¥1,300 (税抜き)

赤と白を混ぜると生まれるピンク。たったそれだけの色なのに、調べ始めると次々に新しい世界が広がっていきます。

「ピンクは女の子の色」という常識は、ここ70年ほどの間に形づけられた比較的新しい価値観にすぎません。古今東西、ピンクは性別を問わず用いられ、建物を彩り、生命や祝祭を象徴する色でもありました。

絵も言葉も親しみやすく、読み終えたあとには「自分にとってのピンクとはどんな色だろう」と語り合いたくなる一冊です。

○ねぎのねぎしくん
戸森しるこ // 作
伊野孝行 // 絵
【小学生（高学年）～】



講談社 ¥1,500 (税抜き)

道端に落ちていた一本のねぎ「ねぎしくん」と、それを見つけた「ぼく」、そして通りがかりのお兄さんとのやりとりから物語は始まります。

ねぎしくんは、ねぎはねぎとして生きていかなければならない自らの役割や幸せについて語り、ぼくは「ねぎしくん」やその仲間たちとの会話や交流を通して、普段は意識しないねぎの存在などに触れていきます。

本書はねぎを擬人化することで、その存在や世界に目を向けさせてくれます。身近な食材を新たな視点で捉え直すことができる、魅力的な一冊です。

○ほるんだ、恐竜化石！
モンゴル恐竜発掘記
平田貴章 // 写真・文
小林快次 // 監修
【幼児～】



小学館 ¥1,600 (税抜き)

恐竜化石の発掘といえば、宝探しのような冒険的なイメージを抱きますが、地道な作業や、砂嵐に見舞われる過酷な環境での生活、専門的な道具を使い分ける工夫や苦労が描かれています。

文章だけでなく、砂漠の風景や化石の写真も美しく、発見の喜びや現場の空気感が臨場感をもって伝わってきます。食事の様子も興味深く、子どもから大人まで楽しめる一冊です。

発掘の現場をリアルに感じさせ、より深い興味や「挑戦してみたい」という気持ちを引き出してくれます。

○白さぎ
セアラ・オーン・ジュエット // 作
バーバラ・クーニー // 絵
石井桃子 // 訳
【中学生～】



偕成社 ¥1,800 (税抜き)

「白さぎ」は、森で祖母と暮らす少女シルビアが、白さぎを探しに来た青年と出会い、珍しい白さぎの居場所を知りながらも、自然と鳥を守るために、たとえ惹かれた青年にであっても、秘密を話さないことを選ぶ物語です。

自然への敬意や、良心に従う心が静かに描かれています。

読み聞かせて味わう、挿絵を見ながら情景を補うなど大人の支援があるとより価値が伝わるでしょう。

読む人の内面を深く育てる力をもつ文学作品、中高生向きの一冊です。

○万丸食堂、奇跡のソフトクリーム
山本悦子 // 著
【小学生（高学年）～】



理論社 ¥1,500 (税抜き)

本作品は、岩手県に実在するマルカンビル大食堂を舞台にした、不思議な物語です。

万丸食堂の名物である10段重ねの長いソフトクリームを食べると、老若男女が幸せな気分になり、会えるはずのない人に会ったり、胸が高鳴るような出会いが訪れたりするそうです。

また、岩手の震災にも触れており、悲しい記憶を呼び起こす一方で、最終的には人と人とのあたたかなつながりや、家族・友人への深い愛情が感じられる作品となっています。

現代では希薄になりがちといわれる人と人との関係について、大人も子どもも改めて考え、あたたかな気持ちを抱くことができます。